



# 各家庭で準備しよう 「もしも」のときのこと

～女性や子どもの視点を考えた備蓄～

問 危機管理対策室 ☎内線 241・244

阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から4年が経過しようとしています。

災害はいつ起こるか分かりません。いざという時に、どのような行動するか、何を持ち出せば良いか、などをあらかじめ決めておくことが大切です。

また、自分と家族の命とわが家を守るために必要なのは、まず「わが身わが命、わが家は自分で守る」という自覚を持つことです。災害は他人事ではなく自分のことです。自分の身が安全でこそ、家族を救うことが出来るというのを覚えておきましょう。



東日本大震災では、避難所での性別や年齢の違いによって必要なものが異なることへの理解不足という問題が数多く聞かれました。男性も女性も互いの性別の違いによる必要なものへの違いを理解し、尊重することが必要です。日頃より自分で用意できることや、家族に必要なものは何かを考え、あらかじめ備えておくことが大切です。食料品などは用意してあっても、女性や子ども用品の備蓄は忘れがちです。それぞれの家でチェックリストを作り、日頃から災害に備えましょう。

## そなえ



湘南リビング新聞社との協働により発行した、町民のための防災情報誌「そなえ」を平成26年11月に広報おおいそと一緒に全戸配布しています。

女性の視点を加えて災害の知識や防災のノウハウ、子どもや高齢者、ペットがいる場合のポイントも紹介しています。また、「そなえ」には外出時にお財布や定期入れ等に入れて活用できる防災ポケットガイドもついています。

「ご家庭で災害への「そなえ」に役立ててください。」  
「そなえ」は大磯町ホームページから、閲覧・ダウンロードすることも出来ます。

